

誰もが「おめでとう」と誕生を祝福され「ありがとう」と看取られる地域づくりマガジン

えにしふみ

vol.13
2018.3.31

滋賀の縁創造実践センター



P1-4 (特集)

-地域とともに～甲賀・湖南ひきこもり支援～
『奏 -かなで-』運営会議

P5-6 連載

P7-8 インタビュー

しがの子を取り巻く縁

ハローわくわく仕事体験記 クブル・ピュセ
ようこそ！うちの子ども食堂 柏原子ども食堂(米原市)
フリースペース フリースペースふじの里なごみの家(高島市)

縁人Voice

龍谷大学社会学部現代福祉学科 准教授 山田容さん
現場からVoice 長浜市社会福祉協議会 高橋規宏さん

特集

地域とともに～甲賀・湖南ひきこもり支援

『奏 -かなで-』運営会議

縁センターのひきこもり等の支援小委員会から始まった「甲賀・湖南ひきこもり支援『奏-かなで-』」の取り組みは、4年度目を迎えようとしています。今号では、この取り組みの大きな特徴である運営会議のありかたと関わり続ける中でうまれた思いについて紹介します。



「あかんようになったと思ってほしくない。
今の私も私やから認めてほしい」

「自分を守るためにひきこもっていた。
でも、人を求めているし、
話すことへの渴望がある」

これは、平成29年12月6日に開催された「甲賀・湖南ひきこもり支援『奏-かなで-』」公開講座で当事者から届けられた言葉です。

ひきこもりがちな人と家族への支援は今、地域や世代を問わず、多く聞かれる課題です。しかし本人や家族自らがSOSを発信されることはほとんどありません。また、障害分野の福祉関係者は社会とのつながりから孤立している人に気づいても、障害福祉サービスの対象でない人に對して継続的に支援をすることは難しかったと言います。そうした中「おせっかいかもしれないけど、ほっとけない。何とか支援を届けたい」と熱を持った人が集い、動き出した『奏』の活動。毎年開催されている公開講座(P4参照)ではその1年の集大成として支援者や関係機関、当事者から思いが語られ、大きな反響を呼んでいます。

この『奏』の取り組みの特徴として、運営会議という仕組みがつくられたことがあげられます。これは、従来の相談支援にはなかった実践の形です。社会福祉法人、民生委員児童委員、保健所職員、市役所職員、社協職員等が一堂に集い、分野や所属を超えたつながりのもと、多面的な支援が展開されてきました(事務局:社会福祉法人さわらび福祉会)。「ひきこもりがちな人と家族の支援につ

いて話せるテーブルが福祉圏域の中に位置づけられたことはこの取り組みの大きな成果だ」と、ひきこもり等の支援小委員会リーダーの金子秀明さんはいいます。運営会議では定期的に顔を合わせて各部会の進捗状況を全体共有し、さらなる推進に向けた検討を行っています。そして、その実践部隊となるのが各部会です。それぞれの機関が現場でキャッチしたケースを持ち寄り、アウトリーチ・奏サロン部会、地域啓発・交流部会や家族支援部会が定期開催されています。

ある日のモデルケース会議では、訪問支援(アウトリーチ)を行う相談支援員から自分の役割について悩む声がありました。閉鎖性の高い個別支援の中で目に見える変化や成果につながらないまま進んでいくことへの不安や戸惑いが語られます。そんな中、メンバーから「訪問支援のおかげで今まで聞くことができていなかった思いを引き出せていることそのものがありがたい」「『今まで仮面やった人が、こんなこと言ったら笑ってくればった! 次もやってみよう』というプロセスのひとつひとつも、貴重なアセスメント。本人のペースを大切に、じっくりゆっくりやっていこう」と声がかけられます。

支援者や関係機関も、自らの支援について話し、支えられる場があることで気持ちが落ち着きます。違う視点からの意見も交えたうえで共通認識を持ち、次のアプローチにつながるほか、支援技術を互いに高め合うきっかけにもなっています。

なにより大切にしているのは、ひきこもりを本人や家族の中だけの課題とせず、地域の課題として考えること。地



地域啓発・交流部会
作成のリーフレット



家族支援部会による学習会

域の中で過ごしてきた時間も含めて「今」があることを確認し合いながら、ひきこもる人を排除しないあたたかいま

なざしの地域づくりをめざし、取り組みを重ねています。

各部会の活動内容

アウトリーチ(訪問支援)・ 奏サロン(居場所づくり)部会

構成機関 甲賀保健所、甲賀市生活支援課、甲賀市障がい福祉課、湖南市健康政策課、湖南市住民生活相談室、滋賀の縁創造実践センター事務局、さわらび福祉会(事務局)

開催頻度 概ね隔月

- 内容**
- 初期の相談から、支援プロセスや各機関の役割の整理。
 - 事例を通して、支援方法や視点について検討。
 - ひきこもりの背景をたどりながら、関わりのポイントを検討等。

取り組み

自宅への訪問や相談機関などへの同行等の訪問支援や自宅以外のひとりで過ごせる、あるいは交流できる居場所づくりを行っています。毎月1回、モデルケース会議を開催し、事例検討しながら、従事者のスキルアップと支援者の役割や連携について学んでいます。

家族支援部会

構成機関 甲賀保健所、甲賀市生活支援課、湖南市住民生活相談室、滋賀の縁創造実践センター事務局、さわらび福祉会(事務局)

開催頻度 概ね隔月

- 内容**
- ひきこもり支援をすすめるには、家族支援の重要性を共有。
 - 家族支援のありかたや各機関の役割について検討等。

地域啓発・交流部会

構成機関 甲賀市民生委員児童委員協議会連合会、湖南市民生委員児童委員協議会、甲賀市社会福祉協議会、湖南市社会福祉協議会、滋賀の縁創造実践センター事務局、さわらび福祉会(事務局)

開催頻度 概ね隔月

- 内容**
- 「ひきこもり」支援が、行き届きにくい実態や啓発の重要性を共有。
 - 地域への啓発活動に向けた検討。
 - 各機関や各地域の実態や取り組みについて共有等。

運営会議

共感からはじまる地域づくり

～実践の現場からレポート～

Report
1

民生委員児童委員 服部照代さん、
さわらび福祉会 山崎秀樹さん・
北出篤嗣さんに伺いました



右：社会福祉法人さわらび福祉会 甲賀・湖南ひきこもり支援『奏-かなで-』事務局長 山崎秀樹さん
中央：湖南市民生委員児童委員協議会 服部照代さん
左：社会福祉法人さわらび福祉会 甲賀・湖南ひきこもり支援『奏-かなで-』主任相談支援員 北出篤嗣さん

「助けて」といえる地域づくりへ — 見て見ぬふりは、終わったと思いました

2011年に民生委員*児童委員として着任した服部照代さんは、以前から地域のひきこもりがちな方がいる家庭のことが気になっていました。しかし、その家庭にどう声をかけるか、また、声をかけたところでどうなるのか…そんなことから一歩が踏み出せず、自身の無力さを感じていました。そんな服部さんにとって転機となったのは県民生委員児童委員協議会連合会主催の研修会で奏の実践をきいたことでした。その中で語られた15年間ひきこもっていた方の言葉に、強く心を動かされたと言います。「これまで、何もできずにいました。でも、あのお話を聞いたこと、奏の存在を知ったことで見て見ぬふりは終わりにしようと思いました」。早速、民生委員児童委員協議会の定例会でひきこもりがちな家庭の状況を知ることから始めました。はじめは消極的な民生委員もいましたが、「今、問題なく生活されているように見えて、いずれ親御さんに何かあったとき、大きな問題となるのでは」と、取り組みの必要性を丁寧に伝えすることで、周囲も共感してきました。各地区のひきこもり世帯を調査すると、10件以上報告がありました。

*民生委員

担当区域において住民の生活上のさまざまな相談に応じ、行政などの支援やサービスへのつなぎ役や、高齢者や障害者世帯の見守りなど重要な役割を果たす。児童委員を兼ねる。

本人と会うまでの道程は遠く、最初は親御さんへのアプローチから始まることが多いほとんどです。服部さんは「恥ずかしいことやと思って抱え込んでおられることも多い親御さんの心労をとにかくねぎらいたい。『助けてと言ってくれはっていいんですよ』と伝えるための地域づくりが少しずつ進んできて、やっとここまで来た、という気持ちです」といいます。

どのような関わりなら 届けられるのか — チーム支援

奏では支援者が課題を抱え込み孤立することがないように、チーム支援のあり方が重要だと考えています。奏の主任相談支援員の北出篤嗣さんは「時として、支援に悩むこともあります。そんな時、どんな支援、アプローチなら本人さんにとってよいものとなるかとともに考えててくれるチームがあるのはとても心強いです」といいます。民生委員児童委員や保健師、行政担当課職員、社協職員などの専門職が支援チームとして考えられますが、それぞれが支援の線を引いてしまうのではなく、本人にとつての良い支援のために時にアドバイスし、時に励ますようなお互いを支え合う関係性が重要と言えます。そして、奏の事務局長の山崎さんは「ひきこもりという課題が家庭におしつけられる社会に違和感をもっています。何かことが起こってからはじめて支援につながるケースが多いのが実情ですが、そうなる前に少しでもつながっておくことで結果が変わってくると信じています」と予防の重要性を話します。ひきこもっている人たちを取り囲む空気がやさしいものとなることをめざし、地域と専門職がともに手を取り合いながら取り組みを進めています。



立場は異なりますが、地域の一員として『奏-かなで-』に参画する皆さんに、取り組みのなかでの自身と周囲の変化や得たもの、今後の展望などお話を伺いました。共通する思いの先には人が人を支え、官と民が互いの長所を活かして連携する社会のあり方がみえました。

Report 2

甲賀市保健師 大西裕紀子さんに伺いました



甲賀市役所健康福祉部 障がい福祉課相談支援係 係長 大西裕紀子さん

保健師として奏に関わって

地域住民の健康増進や生活の質の向上をサポートする保健師。乳幼児から高齢者まで幅広い世代と関わり、保健指導や病気の予防、健康づくりの支援がその役割です。奏は甲賀市の保健師、大西裕紀子さんにも参画を呼びかけました。アウトリーチ部会（訪問支援）、奏サロン部会（居場所づくり）に関わっています。

以前から甲賀圏域の保健所でもひきこもりがちな人の当事者サロンが行われており、ご家族から大きな期待が寄せられるものの、本人への直接的な支援まではなかなかたどり着けない状況がありました。そんな中始まった奏に、大西さんは大きな可能性を感じながら保健師として

本人の状態像を捉え、ケースへの見立て（アセスメントの視点）を伝えるなどしています。

地域づくりの大事さの確信

「誰もが自分らしく暮らすことができる地域をみんなでつくっていくことの大切さを感じられたことが一番の学びです。人は人との関わりの中で前を向いたり、あるいはそのきっかけをつかむのだと思います。皆でどうやったらこの人にとって良い環境となるかという純粋な気持ちを持ち寄り話し合うことで、自分が大事だと思っていたものがもっと大事なものに変わるんです。方向感が連動している実感を持ちながら進めていくことがうれしいです」と大西さんはいいます。モデルケース会議は本人をどう支えるかをPDCAのサイクルで確認し、家族部会では家族ならではのしんどさを受け止めどう関わるかを考えます。民生委員児童委員、相談支援事業所の職員、行政職員、社協職員などが運営会議をはじめとした各部会に関わることで、地域でひきこもりをどう支えるかについて議論し、その過程を共有しながら進めることで各々の意識の変化も見られ、このことがまさに地域の強みになっているとのことです。

全世代全対象型の包括的な支援のあり方を考えていく中で、子どもから高齢の方までたとえ生きづらさを抱えていてもその人が孤立することのないような地域づくりにこれからも関わっていきたい — 奏の挑戦は続きます。

少し楽になった 少し未来が明るくなったをめざして

=12月6日 甲賀・湖南ひきこもり支援『奏』公開講座=



約200名が参加。この日は当事者と民生委員児童委員が登壇し、抱えていた苦しい気持ちやお互いへの想いを言葉にして交わし合いました。まなざしを送り、見守り続ける存在があると伝え続けること、少し楽になったと感じてもらえる明日をめざしてその人らしさに寄り添うことを確認し合いました。



公開講座で来場者を明るく迎えたこちらのイラストは、奏サロンの利用者が『奏』をイメージして描かれたものです。「さまざまな音色（個性）と相談しやすいあたたかさのある場所」いう思いが込められています。

連載

しがの子を 取り巻く縁

社会の変化とともに、子どもを取り巻く環境も大きく変化しています。子どもにまつわる社会的な課題に対し、縁センターでは、さまざまな角度から取り組みを進めています。この連載では、そうした子どもに関わる現場の様子と思いを紹介します。

ハローわくわく 仕事体験記

児童養護施設や里親のもとで暮らす子どもたちの自立支援として始まった「ハローわくわく仕事体験」は、4年目を迎えました。この冬休みにもたくさんの仕事体験や工場見学をさせていただきました。応援団は現在131企業・事業所が登録! 子どもたちの可能性の輪がどんどん広がっています。

草津駅から徒歩5分、あたたかな佇まいのケーキ店「クブル・ピュセ」のガラス越しに並ぶ色とりどりのケーキが目にとまります。こちらは「出勤前や仕事帰りに寄りたいニーズに応えたい」との思いから、朝8:30から夜8:30まで店の明かりが消えることはありません。「やった方がいいことはやるようになっているだけです」とからりと笑う代表の井倉一之進さんは、この仕事体験の受け入れ以前から中学生の就労体験や小学生への講話など、地域で働く大人のひとりとして子どもの育ちに関わり続けてこられました。年に数日のその日を充実したものにするため、常に子ども世代の流行へのアンテナを張っているそうです。この冬休み、1名の中学生が仕事体験に訪れました。



✉ 参加した子どもより

貴重な体験をさせていただきました。手洗いなどを含めたお客様を思うところなどはしっかりしなければならないことや、店の中だけじゃなく外もきれいに保っておくことなど、たくさんのこと学ばせてもらいました。このことを、これからに生かしていきたいと思います。

L ある日のスケジュール

9:30	出勤! 「10分前には到着! 手洗い・消毒が一番大事な仕事です」
10:00	休憩「雑談で大盛り上がり!」
10:30	製造補助作業スタート 「ケーキに透明シートを巻いてみよう」
12:00	昼食タイム
13:00	チーズケーキ製造作業「最初から最後まで自分でつくる初めての経験♪」
15:00	解散「お疲れ様でした!」

受け入れ企業より

今回来てくれた子は戦国時代が好きとのことで、話が大いに盛り上りました。僕が話に夢中になりすぎて少し失敗しちゃった部分も、彼女の丁寧な仕込み作業のおかげで取り戻せました(笑)そのことを伝えたら喜んでくれましたね。経験が自信になることはもちろんですが、「今」のその子を形づくるひとつひとつに「それええやん」と肯定的な声をかける大人がいる環境があることがかけがえのない土台となって人間を形成していくと思っているので、言葉ひとつとっても出会う大人の責任は大きいですよね。事業規模にかかわらず子どもの育ちに参画することはすべての会社の責務だと思っているので、楽しみながら取り組んでいきたいです。

クブル・ピュセ
代表取締役／オーナー・シェフ
井倉一之進さん



ようこそ！うちの子ども食堂

柏原子ども食堂 (米原市)

スタッフのチームワークの良さが自慢♥

地域の多世代が集い、

「皆が自分のことのように他人のことができる」場所

気がつけばだれもが仲間に

地域でなくてはならない場になっています

園職員がスタッフとなり、H29年3月よりスタート。在園中の子どもや卒園児とその家族のほか、まだ保育園が決まらない待機児童や地域のひとり暮らしの高齢者など毎回50～60人の地域の多世代が集います。もともと地域の自治会から生まれた保育園だということもあり、地域との連携は抜群です。メニューはカレーと寄付でいただく野菜を使った一品(この日はヤーコンのきんぴらでした)が定番です。回を重ねるなかで若いお母さんたちからも自然に手伝います!の声があがるようになり、気づけばだれもが主体的にこの場をつくる一員となってしまう、和気あいあいとした食堂です。



information

団体名: 社会福祉法人 柏葉会 柏原保育園
会 場: 柏原保育園
(米原市柏原2293-1)
日 時: 月1回 土曜日11:00～ 等
電話番号: 0749-57-0077



安心して過ごせる居場所としてあり続けることで
「ふくしのまちづくり」につながると信じて

ずっと前から親御さんも含め、地域の人がいつでも出入りできる居場所をつくりたいと思っていました。本当なら空き家などで「そのためだけの場所」としてできると良いのですが、まずは自分たちの手が届くことをやってみようと園のなかでこの食堂をはじめました。皆が互いに声をかけあいワイワイしている姿を見るのが楽しいです。こういう場所があることがまちづくりに、そしてゆくゆくは「ふくしのまちづくり」につながると思っています。今なかなか人の中でうまく生きられずにいる人も、だれもが「ここにいていいんだ」と安心して過ごせる居場所にしたいです。

(代表／竹中礼子園長)



フリースペース



社会福祉施設を利用した子どもの夜の居場所



▲段ボールでロボットづくり。子どもも大人も遊びは真剣!

フリースペース ふじの里なごみの家

施設名: 特別養護老人ホーム ふじの里なごみの家 (社会福祉法人光養会)

住 所: 高島市安曇川町下小川3220-1

日 時: 毎週水曜日 17:30～20:45

参加者: 2家族5名 (中学生2名、小学生3名)

フリースペースふじの里なごみの家は、開設からまもなく3年目を迎えようとしています。実施施設と市社協、行政、学校がしっかりと連携体制をつくり取り組みを進めています。元小学校教員などの地域ボランティアや施設職員に見守られながら夜の時間を思い思いに過ごすなかで、子どもたちがあいさつができるようになったり、目標を決められるようになったり、少しづつ変化が見えてきました。先日は企業からいただいた商品券を活用してみんなで焼き肉を楽しむなど、この場でいろんな体験をすることも大切にしています。学校と同じことを求めず、子どもたちがいきいきと過ごせる場にしたい、そんな思いを共有しながら実践しています。



▶ 学校の宿題もボランティアさんに教えてもらつてがんばります★

滋賀の縁創造実践センター（以下、縁センター）はモデル事業の実践をとおして、制度のはざまとなっている人たちの暮らしの困りごと解決にチャレンジを続けてきました。今号の縁人には、専門の社会福祉学分野でソーシャルワーク（社会福祉援助技術）や児童虐待をテーマに、龍谷大学で教育・研究をしている山田容さんをお迎えしました。

今、社会福祉の現場では多職種連携、多機関協働そして包括化が重視されています。今なぜニーズ志向が求められているのか－今後整えていくべき仕組みへの考察と提案がありました。

制度から見るのでなく、困りごとからつくる支援を

谷口 多職種連携が重視される背景にはニーズ志向があると思うのですが、ニーズ志向でないとどういうことが起こりますか？

山田 私は、ニーズ志向の対の概念としてサービス志向のソーシャルワークがあると考えます。これは、困っている状況をサービス提供の要件でとらえようとする支援の姿勢です。窓口を訪れた人を行政サービスの担当者は自らが担当する制度に適応するか否かで判断します。適応しない場合、どんな困りごともそこでは支援できません。困っている人の状況全体や人格を受け止める前に、要件という形でその人のほんの一部だけ見て終わりということも起こりがちです。

これに対し、ニーズ志向は困りごとから支援をつくっていきます。たとえばひとりの親が抱える子どもの不登校と自身の障害と親の介護等、ひとつの家庭で起きている重なり合った課題を制度ごとに分断せず、支援者がつながり合い家庭を丸ごと支えようとする形です。この場合は困りごとに寄り添い、できない支援があれば工夫しつくり出す、もしくはできるところにつなぐ力が求められます。縁センターではこの力が培われたと思います。

谷口 制度に適応していないと支援できないという限界からはじまったのが、縁センターのモデル事業でした。例えば「甲賀・湖南ひきこもり支援『奏-かなで-』」の起点は、主体となつた法人のスタッフが一度はつながりながらも対応できずにい

龍谷大学社会学部現代福祉学科 准教授
滋賀の縁創造実践センター 理事

山田 容 さん

お話を伺った
えにしひと
縁人



た、制度の枠外となっていた方たちのことを真剣に受け止めたことでした。

山田 「できていなかつた」という自覚は一見、支援者の敗北のようにも感じがちですが、実は大きな強みです。対応できない困りごとは同時に支援者の限界でもあり、「単独の機関ではできないことがある」ということを自覚し、他の支援者と共有することが大切です。その発信は社会への問いかけとなり、応えられる、応えたい人が現れることでネットワークがひろがり、貴重な社会資源の発掘や創造へつながります。子ども食堂もそのひとつ可能性を見せてくれています。月1回の食堂で劇的な変化は得られないとしても、食堂スタッフは絶えず子どもを見守り、丸ごと受け止めています。そして、気になったことを仲間で共有し、民生委員児童委員や社協のワーカー、学校の先生らに発信する。それぞれが「できないこと」ではなく「できること」を出し合う実践を、気づきからつくっていきましょう。100か所近い子ども食堂は滋賀の宝ですよ。月1回に向けて醸し出される地域の空気の変化

を、子どもたちも気づいているはずです。地域に共生の文化が育まれていく、本当にうれしいですね。

「弱さ」の公表がつなぐ力に 生活者目線から支援をつむぐ

谷口 まさに多職種連携は課題の共有からと言われてきましたが、実際に支援の輪をひろげることは容易ではない現状もあります。

山田 一つは、支援者が「弱さ」を公表すること。それがつなぐ力になります。もう一つは、「困りごと」、「家族」、「地域」それぞれのアセスメントを持ち寄ること。そこから共有すべき課題がみえてきます。専門職はつい自分の専門性から人を見てしまい、同じ課題を共有しているようでもその意味づけが異なり、それぞれの設定した支援をしてしまいかがです。これからは困っている人のニーズを見るように意識づける教育と全体を見ることへの評価システムが必要ではないでしょうか。教育・保健・医療・福祉がともに「この家庭の困りごとは何か」ということに向き合い、それのできることを持ち寄ってアクセスするように。この認識は難しいことではありません。支援者だれもがまた生活者であり、家庭という基盤に必要な支援を集めながら暮らしているのですから。一人世帯で家族という社会資源を持たない人が増えている今、新たなつながる仕組みが求められています。

谷口 いま県内の大学で学んでいる学生には、ぜひ滋賀の福祉現場で育ってほしいですね。

山田 「こうなりたい」と思える人との出会いがその道を志す大きな動機になります。いま現場にいる職員がやりがい、生きがい、楽しさを感じながらいきいき働いている姿を見せてやりたいですね。実習で多職種連携の現場等も効果的に取り入れながら、地域の豊かな暮らしを広い視野で考えられる人材育成ができるべきだと思います。

聞き手

滋賀の縁創造実践センター所長
谷口 郁美



現場から Voice



たかはし のりひろ
高橋規宏さん

長浜市社会福祉協議会ほのぼのケアプランセンター伊香の里で介護支援専門員として勤務。社会福祉士／介護福祉士。家庭では元気いっぱいの3歳と1歳の男の子の育児に奮闘中！

社協5年目、ケアマネジャーとして 多様なつながりを大切にする日々

社協5年目、地域福祉の仕事も経験し現在はケアマネジャーとして働いています。本人さんやご家族さんとのなにげない雑談を大切に、丁寧に信頼関係を築いていくよう心がけています。社協の仕事では出会う方の困りごとを自分が解決できなくても、多様なつながりの中で新たな道を見つける事ができます。この仕事を通してつながった弁護士、司法書士、介護保険事業所等、さまざまな専門職の方々と同じ方向を目指して一緒に働くことが楽しいです。

大学時代の経験からこの道へ 地域の困りごとに向き合っています

大学時代にボランティアで訪れた社協の仕事に魅かれ、6年間他の高齢者施設に勤務した後念願の社協へ転職しました。実際働くなかで、都会に比べて地方はSOSを出しにくい人が多いように感じています。助けてと言うことを恥だと感じて、丸ごと自分だけで抱えてしまわれているんではないかと思うのですが、それはしんどいですよね。深刻な困りごとになる前につながれるように、支援者がもっと地域に入っていくないと感じています。自分がしたいことを実現しやすいことは社協の醍醐味だと思っていますので、地域の方に喜んでもらえるような企画も考えていきたいです。

自分だからできることを信じて

自分だからできること、自分にしかできないことが絶対あります。専門職だけでなく民生委員さんや地域等、人と人とのつながりのなかで発見ができる楽しさ、学び続けることができる面白さを是非味わってもらいたいです。

Information

縁センターからのお知らせ

活動期間終了後も“滋賀の縁”の志の継承と発展を！～臨時総会より

(平成29年12月19日開催)

まもなく最終年度を迎える縁センター。活動期間終了後の方針について会員意向調査の結果をふまえ、臨時総会を開催しました。改めてこの活動がもつ「共生社会をつくるための手法」「制度の狭間への問題提起・課題解決型ネットワーク組織」「連携の基本システム」という3つの独自性を今後はさらに発展させていくことが重要であることを確認。この理念と実践の方向観は県社協が責任を持って引き継いでいくことについて承認いただきました。会員からは「これまでさまざまな分野の方とつながり、課題を知ることができ、たいへん勉強になった。今後もこのつながりを大切にしたい」「実践をとおして職員の視野がひろがり、「福祉サービスの提供者」から「福祉人」になれたのではないかと思う。課題もあるが、身銭を切ってもこうした課題に向かうことはそもそも社会福祉法人の姿」などの声が上がりました。現在どのように継承するかについて検討をすすめているところです。



START! 滋賀県介護支援専門員連絡協議会で傍楽体験(はたらくたいけん)！

働きづらさを抱える人の小さな働く場づくり「傍楽体験」が県介護支援専門員連絡協議会ではじまりました。今後は3カ月に1回ペースで開催されます。現在は6ヵ所で傍楽体験が実施されており、その体験メニューの多くが発送作業ですが、それぞれの団体で雰囲気が異なるため、体験者にとってさまざまな働く場を見るきっかけになっています。



就職説明会さながらの ブース交流にチャレンジ! 中高生のプロフェッショナルセミナー ～ハローわくわく仕事体験にむけて～

(12企業19名、児童31名が参加)

さまざまな働く大人と出会い、人生の先輩から直接お話を伺うことで自身のより具体的な自立イメージを育み、長期休みのハローわくわく仕事体験につなげることを目的に開催してきたプロフェッショナルセミナー。今年度3回目となる今回は、企業のブースを設けてそれぞれゆっくりお話しする形をとりました。各社からの熱いプレゼンを聞いた後、ドキドキしながらブースに向かう子どもたち。あたたかな歓迎に少しづつ緊張もほぐれ、安心して用意してきた質問を尋ねたり、熱心にお話に聞き入ったりと多くの学びを得るひとときを過ごしました。春休みの体験に向けて子どもたちの意欲が高まりました。



「真剣に話を聞いてもらえて、とてもうれしかったです」
(子ども)

「子どもたちの積極性をとても感じました！ブースのおかげで一人ひとりと話せました」(企業)

「一歩踏み出す勇気について声をかけてくださる姿が印象的でした」(施設職員)

ひろがっています！応援の輪 子どもの笑顔はぐくみプロジェクト

「遊べる・学べる淡海子ども食堂」や「フリースペース」等、縁センターから生まれた子どもの笑顔を育む取り組みを支え続けるための仕組みとして動き出した「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」。これは、企業や個人がお金やモノ、体験や場所の提供等それぞれのできる形のサポートを“子どもの笑顔のスポンサー”として登録いただき、子どもを真ん中においた地域づくりをさらにすすめるためのプロジェクトです。平成29年8月の活動開始から約半年で非常にたくさんのお申し出を頂き、皆さまの関心の高さと熱い思いに活動者や関係者も大きな感動と喜びに包まれています。

「自分で運営は難しいけれど、習字なら教えられる」「この空きスペース、子どもの遊び場に使ってもらえるかも」
そんなあたたかいサポートをお待ちしております！

HP <http://shiga-hug.jp/>
Facebook <http://www.facebook.com/shiga.hug/>



滋賀の縁創造実践センター 会員名簿

平成30年2月28日現在

団体会員

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会、一般財団法人 滋賀県老人クラブ連合会、一般社団法人 滋賀県介護福祉士会、一般社団法人 滋賀県保育協議会、
公益財団法人 滋賀県身体障害者福祉協会、公益社団法人 滋賀県社会福祉士会、公益社団法人 滋賀県手をつなぐ育成会、滋賀県介護サービス事業者協議会連合会、
滋賀県介護支援専門員連絡協議会、滋賀県里親連合会、滋賀県児童福祉入所施設協議会、滋賀県社会福祉法人 経営者協議会、滋賀県障害者自立支援協議会、
滋賀県民生委員児童委員協議会連合会、滋賀県老人福祉施設協議会、滋賀県市町社会福祉協議会会长会、社会福祉法人 滋賀県視覚障害者福祉協会、
社会福祉法人 滋賀県母子福祉のぞみ会、医療福祉・在宅看取りの地域創造会議、レイカディアにしの会、滋賀県救護施設協議会、淡海フィラソロビーネット

法人会員

【大津】(一財)博愛会、(福)青桐会、(福)穴太福社会、(福)近江笑生会、(福)近江神宮仁愛会、(福)大石福祉会、(福)大津市社会福祉協議会、(福)大津市社会福祉事業団、
(福)大津ひかり福祉会、(福)おおみ福祉会、(福)恩徳寺会、(福)華頂会、(福)唐崎福祉会、(福)共生シンフォニー、(福)桐生会、(福)幸寿会、(福)好和会、
(福)湖青福祉会、(福)小鳩会、(福)滋賀同人会、(福)志賀福祉会、(福)真盛園、(福)新緑会、(福)夕陽会、(福)膳所福祉会、(福)石光山会、(福)禪心福祉会、(福)せんだん二葉会、
(福)つばさ会、(福)春風会、(福)琵琶湖愛輪会、(福)美輪湖の家大津、(福)楽樹
【湖南】(福)あけぼの会、(福)永山会、(福)恩賜財団済生会、(福)恵愛会、(福)湖南会、(福)彩陽会、(福)しあわせ会、(福)慈惠会、(福)すぎのこ保育園、(福)聖優会、
(福)パレット・ミル、(福)ひかり会、(福)びわこ学園、(福)みのり、(福)守山市社会福祉協議会、(福)守山向日葵会、(福)野洲慈恵会、(福)野洲市社会福祉協議会、(福)友愛、
(福)よづや会、(福)栗東市社会福祉協議会、(福)良友会、(特非)草津市心身障害児者連絡協議会、(特非)ものわざカフェの仲間たち
【甲賀】(福)あいの土山福祉会、(福)芦穂会、(福)近江ちいろは会、(福)近江和順会、(福)大木会、(福)おなご会、(福)甲賀会、(福)甲賀学園、(福)甲賀市社会福祉協議会、
(福)甲南会、(福)湖南市社会福祉協議会、(福)さわらび福祉会、(福)しがらき会、(福)信楽福祉会、(福)天地会、(福)八起会、(福)ひまわり会、(特非)NPOワイワイあぽしクラブ
【東近江】(福)阿育会、(福)一善会、(福)近江兄弟社地塙会、(福)近江八幡市社会福祉協議会、(福)グロー～生きることが光になる～、(福)恵泉会、(福)湖東会、
(福)さらら会、(福)サルビア会、(福)慈照会、(福)真寿会、(福)布引会、(福)八宮会、(福)八幸会、(福)万松会、(福)東近江市社会福祉協議会、(福)日野町社会福祉協議会、
(福)日野友愛会、(福)ほのぼの会、(福)めぐみ会、(福)雪野会、(福)竜王町社会福祉協議会、(福)六心会
【湖東】(福)愛荘町社会福祉協議会、(福)あすなろ福祉会、(福)近江ふるさと会、(福)甲良町社会福祉協議会、(福)さざなみ会、(福)さざなみ学園、(福)椎の実会、
(福)慈雲会、(福)白露会、(福)大樹会、(福)多賀町社会福祉協議会、(福)朋朋会、(福)豊郷町社会福祉協議会、(福)ソゾミ会、(福)彦根市社会福祉協議会、(福)彦根福祉会、
(福)ふたば会、(福)みづほ会、(福)三つ和会、(福)ゆたか会、(福)若葉会
【湖北】(福)柏葉会、(福)カトリック京都司教区カリタス会、(福)光寿会、(福)公悠会、(福)湖北真幸会、(福)湖北報恩会、(福)青祥会、(福)尊徳会、(福)達真会、
(福)長浜市社会福祉協議会、(福)はのくに、(福)米原市社会福祉協議会、(福)まんてん
【高島】(福)大阪自彌館、(福)光養会、(福)新旭みのり会、(福)たかしま会、(福)高島市社会福祉協議会、(福)虹の会、(福)はこぶね会、(福)ゆたか会
【県域】(福)滋賀県社会福祉協議会

個人会員

上野谷 加代子、故 山辺 朗子、上西 祥之、廣田 敬史、大谷 雅代、宮本 育子、前阪 実憲、疋田 由香里、上村 文子、尾畠 聰英、山元 浩美、北居 理恵、
松本 敦三、森本 美絵、奥田 与嗣男、西村 孝実、中根 超信、村上 浩世、平井 佑希、南 多恵子

賛助会員

元三フード株式会社、総本山西教寺、株式会社なんてん共創サービス、大津市仏教会、滋賀県仏教会、一般社団法人きれいや総研 滋賀中央センター、
株式会社彩生舎

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償 !!

平成30年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

保険金額

保険金の種類	プラン	Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	1,400万円
	後遺障害保険金	1,040万円 (限度額)	1,400万円 (限度額)
	入院保険金日額	6,500円	10,000円
保険金	手術 入院中の手術	65,000円	100,000円
	外来の手術	32,500円	50,000円
	通院保険金日額	4,000円	6,000円
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ	
	葬祭費用保険金 (特定感染症)	300万円(限度額)	
賠の 償 責任 保 金	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)	

年間保険料 (1名あたり)

タイプ	プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ		350円	510円
天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波)		500円	710円

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが、天災危険担保特約条項、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

保険金をお支払いする主な例



ボランティア行事用保険

送迎サービス補償

福祉サービス総合補償

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

(傷害保険)

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL:03(3349)5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、12/31～1/3 を除きます。）

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
営業時間：平日の 9:30～17:30 (12/29～1/3 を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一緒に結ぶ団体契約です。

(SJNK17-16970 2018.1.9 作成)

滋賀の縁創造実践センターとは



[えにしちゃん]

分野や所属を越えた福祉関係者の集まりです。滋賀に暮らすだれもが「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られるまで、生き生きと地域のなかで暮らすことを支える実践をすすめています。

お問い合わせ

〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138 滋賀県社会福祉協議会内

[Tel] 077-569-4650 [Fax] 077-567-5160

[Mail] enishi@shigashakyo.jp

[HP] <http://www.shiga-enishi.jp>

[Facebook] <http://www.facebook.com/shiganoenishi/>